

保育計画成果報告書

法人名等	横須賀市
施設名	横須賀市立中央こども園
報告者（役職）	上野 綾子（園長）
住所・連絡先	神奈川県横須賀市小川町 20 番地
	☎ 046-822-5244
	E-mail cw-hw@city.yokosuka.kanagawa.jp

○タイトル（保育計画）

遊びが広がる環境～子どもの主体性を育むために～

○主な助成備品

乳児ワゴン、パーテーション、ドリームログ

1. 保育計画策定の目的

横須賀市立中央こども園（利用定員 150 人）は、京浜急行線横須賀中央駅から徒歩 8 分の幼保連携型認定こども園で、令和 4 年 4 月にオープンしました。本園では、子どもが自分で考え、選び、行動できるよう、子どもの主体性を育む教育・保育を日々行っています。

（0・1 歳児）

外気に触れる機会を多く持ち、乳幼児期にふさわしい体験をすることで、心身ともに健やかに育つことができます。園庭だけでなく、園外で季節や自然を感じたり、公園や遊具で思い切り体を動かしたり、地域の方々と触れ合ったりする経験の積み重ねが大切です。

（2・3 歳児）

子どもが自分で考え、選び、行動できるよう、子どもの主体性を育む教育・保育を日々行っています。コーナーのある環境を作ることで、コーナーの中での遊びが保証され、小さいながらも、遊び込んだり、友達と玩具を共有したりできる環境を作ります。

自分の好きな遊びをじっくり行うことにより、子ども一人ひとりが力を発揮し、豊かな体験、多くの気づき、ワクワクする気持ちを味わうことができます

（4・5 歳児）

子ども達が、自発的・意欲的に遊びを考え、遊び込み、発展できるような環境が大切だと考えています。遊びの素材も、でき上がったものではなく、子ども達の考え、思い、想像力で変化していく素材が有効だと考えています。

ドリームログは、まさに理にかなった遊具で、自分が考えたことを形にしたり、壊してまた形を変えたりして遊ぶことができ、友達と共同的な活動や挑戦できる活動ができます。

2. 具体的な実施内容

(0・1歳児)

6人乗りの乳児ワゴンを購入させていただきました。

当園は、0・1歳児28名と大所帯で、午前中は戸外・室内で子ども自身が遊びたい場所を選んで過ごしています。ワゴンが増えたことで、「散歩に行きたい!!」の思いを、既存のワゴンと合わせて、実現することができました。

ワゴンを指さし、散歩に行きたいと意思表示する0歳児の姿やワゴンを職員と一緒に押して、0・1歳児のお世話をする年長児の姿がありました。

目的地の公園に着くまでに、途中で出会う地域の方々と挨拶を交わしたり、咲いている花や木の実を拾ったり、自然散策を十分楽しんでいました。また目的地の公園では、広い原っぱで、職員に見守られる中、思い切り体を動かし遊ぶことができました。

当園の近くに0・1歳児が遊べる公園がなく、ワゴンを使用し、少し離れた公園に出かけ、「散歩に行きたい!!」児の願いを叶えることができています。多くの子ども達が一緒に、出かけることができるようになり、貴重な経験となっています。

また、普段の教育保育だけでなく、災害時、0・1歳児はもちろん、歩行が困難な2歳児も乗車し、避難することができ、いろいろな場面で大活躍しています。



(2・3歳児)

お部屋をいくつか仕切るパーティションを購入させていただきました。

好きな玩具でじっくり遊び、気持ちが満足すると、大きい児の姿を真似たり、遊びが発展したり、友達と場を共有し関わりを持ったりしています。また様々な経験から一人ひとりが考えたり、試行錯誤したりしながら、造形遊びや制作遊びを行うことができるようになりました。

2・3歳児は周囲の状況が気になるけれど、自分の遊びは邪魔されたくない、かつ友達との玩具の共有はまだ難しい年齢です。小さいコーナーや少し大きいコーナーと様々な大きさのコーナーを作り、玩具や活動内容で職員が子どもの様子を見ながら、配置を決めています。

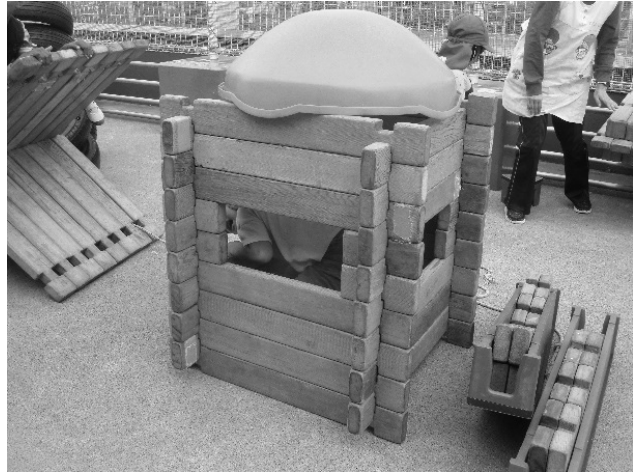
子ども達だけでなく、職員の環境整備に対する意欲が高まり、職員間で話し合い、修正している姿が多くみられます。「環境が変われば、子どもの育ちが変わる」と実感しております。



(4・5歳児)

子ども達の考え、イメージを形にすることで、創造性・創作意欲、また協同性が育つと考えており、購入していただいたドリームログはまさにその願いを叶えられる玩具でした。家らしきものを作り、中に入ったり登ったり、家の中でお茶会をしたり、また次の日は基地らしきものに形を変えたりして遊んでいます。何度も何度も作って崩して、いろいろな形作りを楽しんでいます。

購入した時は、珍しい玩具に興味津々。一人ひとりがパーツを確保することに重きを置き、ひとり4～6程のパーツを使い並べたり、平均台のようにして遊んでいましたが、たくさんパーツを組み立てれば、自分たちが入れたり、乗れたりすることがわかり、友達と協力して入れるものや乗り物を作ることが楽しくなったようです。



3. その成果と評価

当園は「生きる力の基礎を育む」ことを目標に、主体的な活動を通して一人ひとりの育ちにつなげることに取り組んでいます。今回、購入させていただいた遊具で、子どもの創造性や遊びが広がり、また心が豊かになったと感じています。

ワゴンを使って、散歩に行く回数が増え、また自然物に触れることで、情緒の安定が伺えます。職員とも言葉にならない言葉で会話する機会が増え、0・1歳児に大切な、身近な大人との愛着形成がしっかり根付いたと感じています。

一人ひとりが遊びこめる環境を目指し、まずは遊びの保障をすることで、自信や意欲につながりました。「次は何しよう、何作ろう」と遊びが広がっていく姿がありました。自分の遊びが充実すると、友達に作品や達成したことを自慢したり、それが自己肯定感に繋がったり、少しずつ玩具の共有もできるようになっています。

ドリームログは、玩具の共有や協同活動など、友達と知恵や考えを伝え合い、試行錯誤を繰り返し、作り上げる楽しさを感じることができる遊具でした。

4. 今後の課題と展望

「環境が変わると子どもが変わる、子どもが変わると保育教諭の意識が変わる」

この言葉を実感できる機会となりました。また、子ども達がわくわくする姿や遊びが広がっていく様子を目の当たりにできました。

環境整備に終わりはありません。目の前の子ども達が自ら育つ環境をこれからも目指していきたいと考えています。

以上